



ニュースダイジェスト社発行の『月刊生産マーケティング6月号』の特集『これからのロングセラー』にて、スリムラインについて溝口社長が話されている記事が掲載されました。詳細はライブラリーにてご確認ください。

3 周辺機器のロングセラー MSTコーポレーション



実感すれば他製品には戻れない 差別化の対象はハードからソフトへ

MSTコーポレーション(奈良県生駒市、溝口春機社長)では、焼きばめホルダー「スリムライン」が総売り上げの約半分を占める。焼きばめに最適な専用材料を使用することで、高性能で高機能な製品を生み出してきた。その商品力は、スリムラインの性能を体感したユーザーが、他のツーリングに戻れないと話すほど。しかし、溝口社長は「ロングセラーの要因はむしろソフト面の充実」と話す。そして、ソフト面のニーズは一層高まる傾向にあるという。

極限まで部品を減らしたツーリング

焼きばめホルダーは、コレットや油圧方式に比べて振れ精度が高く、微細加工に適したツーリングだ。今では焼きばめホルダーの代表的な国内メーカーであるMSTコーポレーションも、1998年に2ピースタイプの焼きばめホルダーを発売す



「自動車の試乗など通って体感の機会が少ないので、展示会での実演が重要」と話す溝口春機社長

るまでは、主にコレット方式のツーリングを手掛けていた。

工作機械と工具の間に介在する部品の数が多いほど振れ精度を維持するのが難しい。極端に言えば、工作機械と工具が一体化しているのが理想だが、工具にはさまざまな径があるので現実的ではない。「そこで、極限まで部品の数を減らした結果たどり着いたのが焼きばめホルダーだった」と溝口社長は話す。

同社の焼きばめホルダーの最大の特徴は、専用の金属を使っていることだ。競合メーカーの多くがダイス鋼を使っているのに対し、ステンレス系の特殊鋼を使っている。溝口社長は「熱膨張率がダイス鋼より1.6倍高い。この専用材料はより薄肉で工具をつかむことが可能で、わが社の焼きばめホルダーの真髄だ」と力を込める。

この材料の特性によって、より低い温度で焼きばめや焼き外しが可能となり、ツーリングの先端を細くできる。すると、ツーリング先端の加工部やジグへの干渉が少なくなり、工具の突き出し量を小さくできる。突き出し量を小さくできれば、振れ精度や加工条件を高めることが可能だ。スリムラインの語源にもなっている。

20年間右肩上がり続ける

スリムラインの売り上げは、ツーリング全体の

54%と過半数を占め、対総売り上げでも約47%と半分近い。溝口社長は「スリムラインの発売から約20年になるが、時折入る大口注文を除いても売り上げは緩やかに右肩上がりを続ける」と語る。

もちろん、焼きばめホルダーにも欠点はある。焼きばめ装置が別途必要で、一度固定すると工具の突き出し量を調整できないことが挙げられる。それでも「きれいによく削れるスリムラインの長所を体感したお客さまからは、しばしば『他のツーリングには戻れない』という評価をいただく」(溝口社長)と話すように、ロングセラーにふさわしい性能がある。

ハードよりソフト

しかし、「20年に渡って売り上げ増を続けて来られたのは、ハード(製品)の性能ではなく、むしろソフト(周辺機器やセールス)の充実が大きい」と溝口社長。

例えば、スリムラインは誰でも簡単に高い精度を出せる使いやすさが長所の1つだが、実際に使ってみなければ理解してもらいにくい。誰でも使えることをアピールするために、展示会では必ず作業実演をする。

実演の質を向上させるため、実演をはじめ展示企画全般を担う専門部署を2004年に立ち上げた。「プロジェクト0412」といい、女性中心の部署だ。若い女性が使う様子を見てもらい、使いやすさをアピールするのが狙い。特に販路の開拓が難しい海外では、展示会に訪れるバイヤーの興味を引くことが重要。実演に注力した結果、スリムラインの売り上げ全体に占める海外向けの比率は10年度に半分を超え、17年度は60%を超える見込みだ。

また、14年にはツーリングの正しい使い方をレクチャーする無料の技術サービス「ツールクリニック」



形状や肉厚の自由度が高いスリムライン

をスタートした。焼きばめホルダーは正しく使えば長期間高い精度を維持できるが、過熱や汚れが原因でスベック通りの性能を発揮できないこともある。スリムラインの性能をフル活用してもらうのが狙いだが、他社製品を含め現場の生産性改善を手助けする幅広いサービスと位置付ける。

溝口社長は「今後、工作機械だけでなく工作機器でもハード面では差別化が難しくなる」と見る。その一方で技術サービスなどソフト面へのニーズは増大しており、差別化の対象がハードからソフトへ移っていく流れだという。「これからのロングセラー製品には、高い商品力はもちろん、ソフトの充実が求められるだろう」と語る。

(松川裕希)



実際にスリムラインを使って加工した展示用サンプル